



今年の荒炎祭での「馬場レースイベント」の様子

# 荒尾競馬はいま…

～競馬問題を考える～

荒尾競馬は、今年で創立81周年を迎え、荒尾を代表するレジャー施設の一つです。しかし近年売上が減少して赤字経営が続き、いま大きな岐路に立っています。今回、荒尾競馬の現状や「あり方検討会」からの提言内容、そして今後の取組についてお知らせします。

## 荒尾競馬の概況

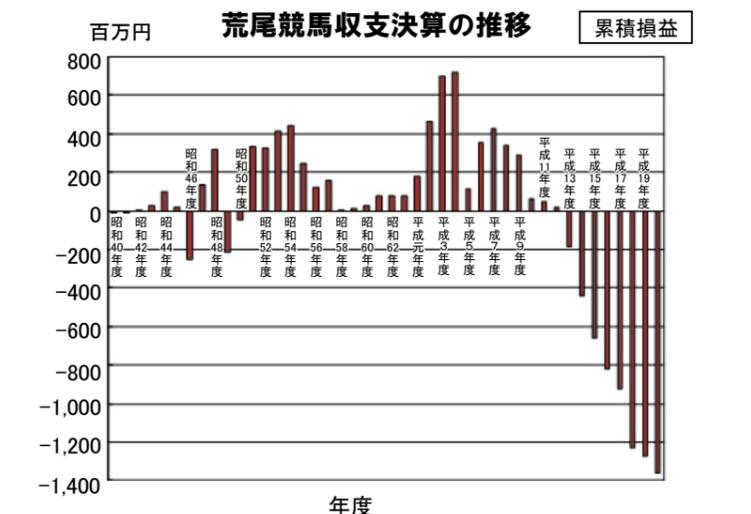
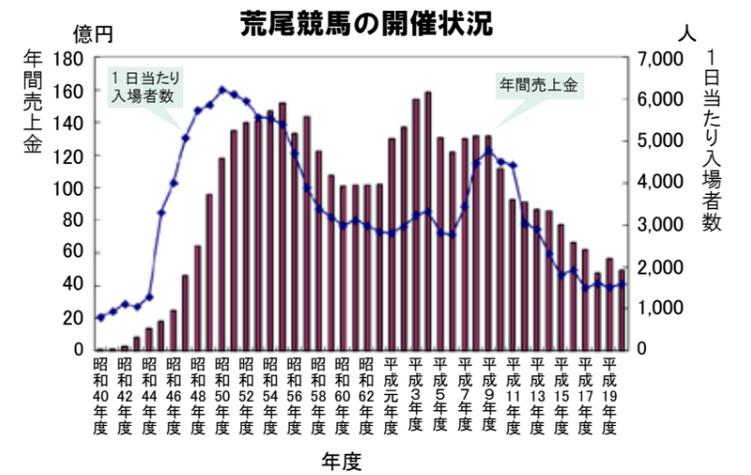
荒尾競馬は、昭和3年、熊本県畜産連合会と倶楽部組織によって第1回レースが開催されたことに始まり、昭和30年には熊本県と荒尾市による荒尾競馬組合を設立し運営を行っています。今年度は、年間70日開催するほか、他の競馬場開催分を269日発売しています。

## 競馬が果たしてきた役割

競馬事業の収益金のうち、これまで87億円が市の一般会計へ繰り出され、公共施設の整備など貴重な財源として市財政に貢献してきました。また、雇用の場や地域経済への寄与のほか、売上の一部は畜産振興への補助にも活用されています。

## 現状と課題

パチンコなどレジャーの多様化や炭鉱閉山の影響などで、平成20年度の開催時入場者数は、開催日の縮小もあり約11万人とピーク時の5分の



## 「荒尾競馬あり方検討会」の提言骨子 (提言全文は市ホームページを参照)

- ◆経営改善と活性化策について
  - ・“粗利”を指標にした売上の目標や重点項目を設定し、その“粗利”に対して経費を一定割合で抑えて、収支均衡を達成する仕組みを提案。
  - ・活性化策…JRAファンの取り込みなど新規ファンの獲得、PRの充実強化、ネット販売の拡充など
  - ・経費節減策…入場料の見直し、委託費の検証、各種手当等の変動制検討など
- ◆今後のあり方について
  - ・競馬事業にこれ以上荒尾市が財政負担することは市民の理解が得られず、存続するには単年度収支の均衡を達成し安定した経営基盤の確立が至上命題。
  - ・今後のあり方については、一定の判断をする時期に来ており、平成21年度から平成23年度までの収支状況および将来の見通しをもって存廃を判断することが妥当。
  - ・ただし、期間の途中であっても、改善の見込みが困難と判断した場合には、存続を断念することも視野に入れるべき。
  - ・すべての競馬関係者は、これを事業再建の最後のチャンスと捉えて、収支均衡の達成に向け、一致団結して取り組んでほしい。

## 荒尾競馬あり方検討会の設置

こうした厳しい経営状況を踏まえ、競馬組合の構成団体である荒尾市では、有識者などによる「荒尾競馬あり方検討会」を本年5月に設置しました。9月まで5回にわたって協議を行い、経営分析による経営改善や活性化策、今後のあり方に関する提言書が10月29日に前畑市長へ提出されました。

## 今後の取組方針

今回の提言を踏まえ、荒尾市としては、長い歴史を保持した荒尾市民の財産である荒尾競馬を存続できるように、提言で示された活性化および経営改善への取組も参考に、競馬組合と連携しながら収支均衡達成に向けて全力で取り組んでいきます。競馬事業の存廃については、構成団体である熊本県とも

協議のうえ、平成23年度までの収支状況および将来の見通しをもって総合的に判断したいと考えています。

ただ、現在の13億5千万円の累積赤字額および運転資金として市から最大13億円の一時貸付を行っている状況は、市財政ひいては市民生活にも大きな影響を及ぼす恐れがあるため、平成21年度および平成22年度の収支

状況によっては存廃の判断をせざるを得ないこともあると考えています。

## 市民のみなさんへ

荒尾競馬では、“市民に開かれた競馬場”を掲げ、荒炎祭やフリーマーケット開催など競馬ファン以外の人にも親しまれる取り組みを進めています。

市民のみなさんもこれを機会に荒尾競馬に関心を持っていただき、ご理解とご協力、ご来場をよろしく願います。

「問」政策企画課  
☎ 63・1273



全国から女性騎手が荒尾に集合（11月26日（木）、レディースジョッキーズシリーズ）



パドックでは目の前で馬が見られます！